

# 天神遺跡第2次・中町遺跡第3次調査

—中央東部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書—



2001年3月31日  
宮崎県都城市教育委員会

# **天神遺跡第2次・中町遺跡第3次調査**

**2001年3月31日  
宮崎県都城市教育委員会**

## 例　　言

1. 本報告は、都市計画事業「中央東部土地区画整理事業」に伴って実施した宮崎県都城市天神町所在の天神遺跡（第2次）及び同市中町所在の中町遺跡（第3次）の埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。

2. 発掘調査は、都城市教育委員会が主体となり、次の日程で実施した。

天神遺跡（第2次調査） 平成12年10月4日～平成12年11月29日

中町遺跡（第3次調査） 平成12年7月21日～平成12年9月29日

3. 調査の組織は、次の通りである。

調査主体者 都城市教育委員会

　　教育長　　長 友 久 男

　　文化課長　内 村 一 夫

　　文化課長補佐 盛 満 和 男

　　文化財係長 堀之内 克 夫

調査 担当 文化課主査 松 下 述 之（天神第2次、中町第3次）

4. 本書の編集・執筆は松下が行なった。

5. 出土遺物の検討、特に製鉄遺物・陶磁器の分類・鑑定にあたっては、次の方々の御指導・御協力を得た。

上 田 　　耕（鹿児島県川辺郡知覧町ミュージアム知覧学芸員）

村 上 伸 之（佐賀県西松浦郡有田町歴史民族資料館学芸員）

大 盛 祐 子（都城市文化課嘱託）

## 本文目次

1.はじめに.....	3
2.遺跡の位置と環境.....	4
3.調査の概要.....	7
1)天神第2次調査.....	7
2)中町第3次調査.....	8
4.まとめにかえて.....	25

## 挿図目次

図1 遺跡の位置.....	3
図2 遺跡の環境.....	4
図3 調査した区域.....	5~6
図4 天神第2次遺構分布.....	9~10
図5 中町第3次遺構分布.....	11~12
図6 中町第3次土層断面.....	16
図7 天神第2次土層断面.....	16
図8 近世掘立柱建物跡.....	17
図9 出土遺物実測図.....	21~22
図10 製鉄作業段階の様子.....	26
図11 鍛冶作業段階の様子.....	26

## 1. はじめに

都城市市街地の中央部に位置している中町・天神地区では、平成8年度より土地区画整理事業（中央東部土地区画整理事業）が施工されており、平成12年度末の段階で全体の約50パーセントにあたる6.45ヘクタールの施工が完了して、平成16年度までに残り約半分の施工と換地処分までを実施する予定です。この事業に伴って、柳川原遺跡・天神遺跡・中町遺跡という三ヵ所の遺跡の記録保存のための発掘調査が行われています。

本書では、天神遺跡の第2次調査及び中町遺跡の第3次調査の成果を写真と図面を使って紹介します。

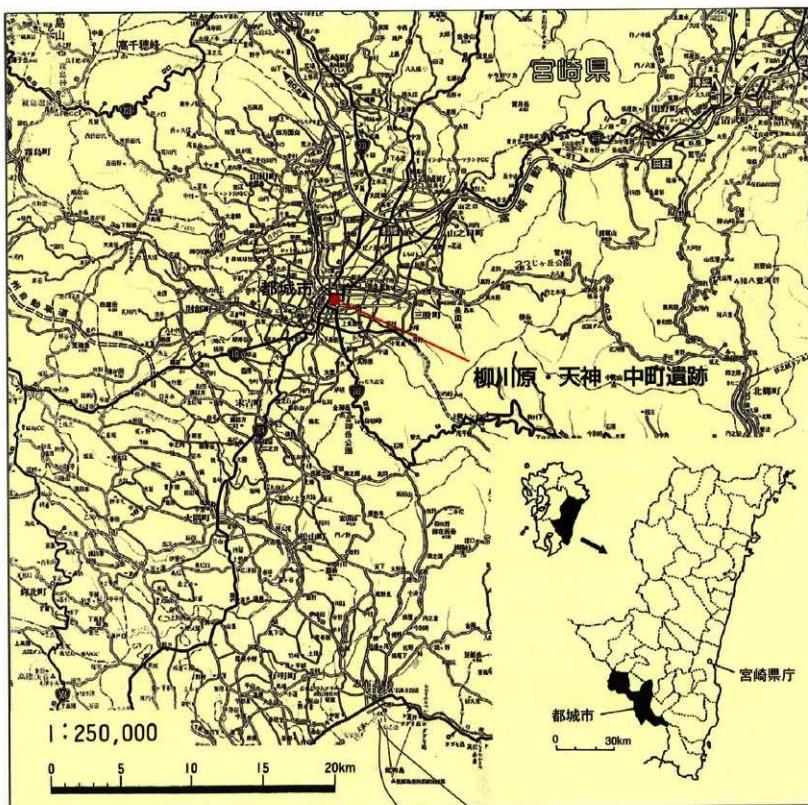


図1 遺跡の位置

## 2. 遺跡の位置と環境

宮崎県の南西部に位置する都城市は、北西に霧島火山群を仰ぎ、東から南を鰐塚山・柳岳を主峰とする山地に囲まれた都城盆地のほぼ中央部を占めています。また盆地中央部を大淀川が貫流しており、多くの支流を集めて南北へ流れています。その大淀川を挟んで、東側の山地は比較的急峻であり起伏が大きく、その裾部には緩やかに盆地底へと傾斜する広大な扇状地が発達しています。一方、北西に位置する山地は霧島火山の山麓にあたり、比較的緩やかなスロープとなっており、その周縁から南にかけては概ね平坦で起伏の少ないシラス台地が広がっています。

調査を実施した天神遺跡・中町遺跡のある中央東部地区（天神町・中町）は、大淀川の支流（年見川）の南側に位置し、近世においては唐人町の（東半部）がこれにあたります。地形的には、盆地東部から広がる一万城扇状地の端部に立地しており、西流する年見川沿い一帯は緩やかな低地面になっています。

なお、周辺の遺跡としては、年見川南北両岸にある年見川遺跡があり、川の河岸段丘上に営まれた大規模な農耕集落遺跡（弥生時代後期後半～終末期）として位置付けられています。

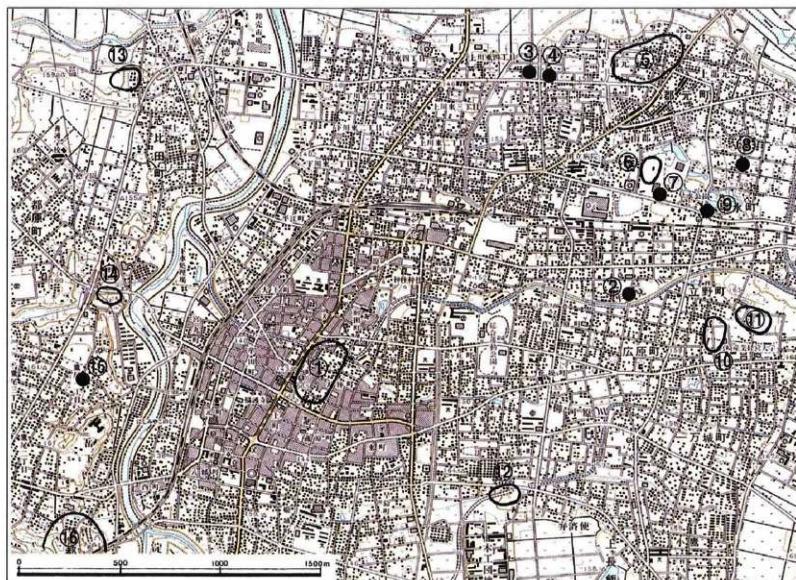


図2 遺跡の環境

- 1. 柳川原・天神・中町遺跡 2. 年見川遺跡 3. 祝吉第1遺跡 4. 祝吉第2遺跡
- 5. 久玉遺跡 6. 牟田ノ上遺跡 7. 池ノ友遺跡 8. 祝吉御所跡 9. 沖水2号墳
- 10. 向原第1遺跡 11. 向原第2遺跡 12. 上ノ園第2遺跡 13. 正坂原遺跡
- 14. ニタ元遺跡 15. 都城古墳 16. 都之城跡

# 中央東部遺跡群分布図（縮尺1：500）

0 10 20 30m



図3 調査した区域

### 3. 調査の概要

#### (1) 天神第2次遺跡

##### 1) 基本層序

天神遺跡の基本的な土層層序は、第1層：灰色砂質土（現耕作土）、第2層：文明軽石をまばらに含む黒褐色砂質土、第3層：黒褐色粘質シルト土、第4層：白色軽石をわずかに含む黒色粘質シルト土、第5層：灰色軽石土、第6層：御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト土、第7層：御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト土（第8層の漸移層）、第8層：御池降下軽石層（霧島御池火口起源・約4,200年前）、第9層：漆黒色粘質シルト土、第10層：明黄褐色粘質シルト土（第11層の漸移層）、第11層：アカホヤ火山灰層…と続きます。このうち遺構検出面となるのは第6層下部から第7層上面、遺物包含層は第2～3層（近世）及び第4～7層（中世）です。

##### 2) 第2次調査

第2次調査は市道建設予定地と換地に伴う住宅新築予定地について発掘調査を実施しました。なお、今回の調査面積は約550m<sup>2</sup>です。調査の結果、近世・近現代を主とする時期の資料が検出（特に防空壕跡）されました。以下、調査概要を紹介します。

文明軽石を含む黒褐色粘質土を埋土とする近世段階の遺構群は、調査区のほぼ西側で確認されています。その内訳は、溝状遺構1条、掘立柱建物1棟とピット群、土坑13基、井戸2基です。調査区の中央部には防空壕跡1基、溜池跡1基など近代の遺構群が見られました。これらの遺構群については、遺跡の西側に集中し（特に北西部）、東側では遺構が余り検出されず（畑地跡？）、近世の陶磁器が数点出土したに止まりました。掘立柱建物跡（SB01）は、土坑（SC12）及び攪乱との切合が見られ、南側に近世井戸（SE01）が確認されます。近世溝（SD01）は、土坑（SC01）と攪乱とに切られ極僅かにしか残っておりません。北側に位置する近世井戸（SE02）は、二層式になっており中から出土した陶器からも比較的近代に近い井戸ではないかと考えられます。遺物については、各土坑内及び第2～3層から陶磁器（伊万里焼・波佐見焼）陶器（薩摩焼）及び土師器が出土し、ピット内から古錢・柱根が検出されました。注目されるものについては、中央部にある防空壕跡（東西約7m×南北約2m・南側に階段跡有）であり、当市においても、現在、中央東部地区だけにしか見られません。その下層から当時のものと考えられる陶磁器が数点出土し、当市の歴史考古学の貴重な資料となると考えています。

#### (2) 中町第3次遺跡

##### 1) 基本層序

中町遺跡の基本的な土層層序は、第1層：灰色砂質土（現耕作土）、第2層：文明軽石をまばらに含む黒褐色砂質土、第3層：白色軽石をわずかに含む黒色粘質シルト土、第4層：御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト土、第5層：御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト土（第6層の漸移層）、第6層：御池降下軽石層（霧島御池火口起源・約4,200年前）、第7層：漆黒色粘質シルト土、第8層：明黄褐色粘質シルト土（第9層の漸移層）、第9層：アカホヤ火山灰層…と続きます。このうち遺構検出面となるのは第4層下部から第5層上面、遺物包含層は第2層（近世）及び第3～4層（中世）です。

## 2) 第3次調査

第3次調査は市道建設予定地と換地に伴う住宅新築予定地について発掘調査を実施しました。なお、今回の調査面積は約500m<sup>2</sup>です。調査の結果、近世を主とする時期の資料が検出（特に鉄滓が多数出土）され、当市において新たに製鉄遺構の存在を裏付けることができました。以下、調査概要を紹介します。

文明軽石を含む黒褐色粘質土を埋土とする近世段階の遺構群、又は、白色・御池軽石を黒色粘質シルト土を埋土とする中世段階の遺構群は、調査区のほぼ全域で確認されています。その内訳は、溝状遺構3条、掘立柱建物3棟とピット群、道路状遺構（硬化面）1条、土坑16基、井戸1基、畝状遺構2条です。これらは文明軽石層の堆積位置や各々の切合い関係などから、相対的に文明軽石降下前の1時期と降下後の1時期に分けることができます。調査区東側を東西にほぼ直線に走る中世の溝状遺構（SD01）は、土坑（SC05）と攪乱とに切られていますが、その幅・深さが同一である調査区西側の溝状遺構（SD03）に繋がっていると考えられます。調査区西側を南北に流れる溝状遺構（SD02）は、鉄滓・陶磁器が多量に検出され近世に人工的に造られたものと考えています。掘立柱建物跡（SB01）は、東西2間×南北1.5間で柱根ピットを含みます。同建物跡（SB02）は、東西2間×南北2間で土坑（SC06）を包围しており、周囲の小さなピット群からみて四面に庇が巡っていたのではと考えられます。同建物跡（SB03）は、東西1.5間×南北3間で南側に近世井戸（SE01）が隣接しています。調査区中央に位置する近世道路状遺構及び畝状遺構は土坑（SC07）に繋がり、南側の大規模な攪乱に切られています。各土坑については、円形（口径0.8~2.3m）のものが多くピット群又は攪乱との切合いが見られ、各ピットは、ほぼ調査区全体に散在しています。遺物については、各土坑内及び第2~3層から陶磁器（伊万里焼染付・波佐見焼・青磁）陶器（藤原焼）及び土師器が出土し、ピット内から古銭・柱根・近世土器等が出土しました。注目すべき点については、SD02の南側より100点余に及ぶ鉄製品（ふいご等）・鉄滓・鉄塊系遺物が出土し、当市では珍しい鍛冶屋跡ではないかと考えています。

道路状遺構に伴う側溝の可能性を含め、詳細について不明ですが、これらを挟んで東西に分布する他の遺構を比較みると、その東側には、2棟の当該期掘立柱建物が分布しているのに対して、西側には掘立柱建物1棟・溝状遺構やピット群が散見される程度です。そうした遺構分布の差から、この道路状遺構の役割の一つとして、建物群の単位を区切る「境界」「区画」等の可能性を示唆することができるかもしれません。各掘立柱建物の柱穴規模は大小様々ですが、ほとんどの柱穴に礫石と同じ役割を果たすような土を突き固めた版築のような痕跡が僅ながら残っていました。更に、鉄滓の分布状況から、製鉄に利用されたと見られる水路跡（溝状遺構SD02）が見られますが、鍛冶屋跡としての炉壁・製鉄炉又は砂鉄の確認はできませんでした。このように、様々な特徴を持つ当遺跡ではありますが、調査区全体に近現代のものと思われる攪乱層が広範囲に深く見られ、各遺構の関連性が分断されていた為に、まだまだ検証できなかったものがあったのではないかと考えています。

天神第2次遺跡

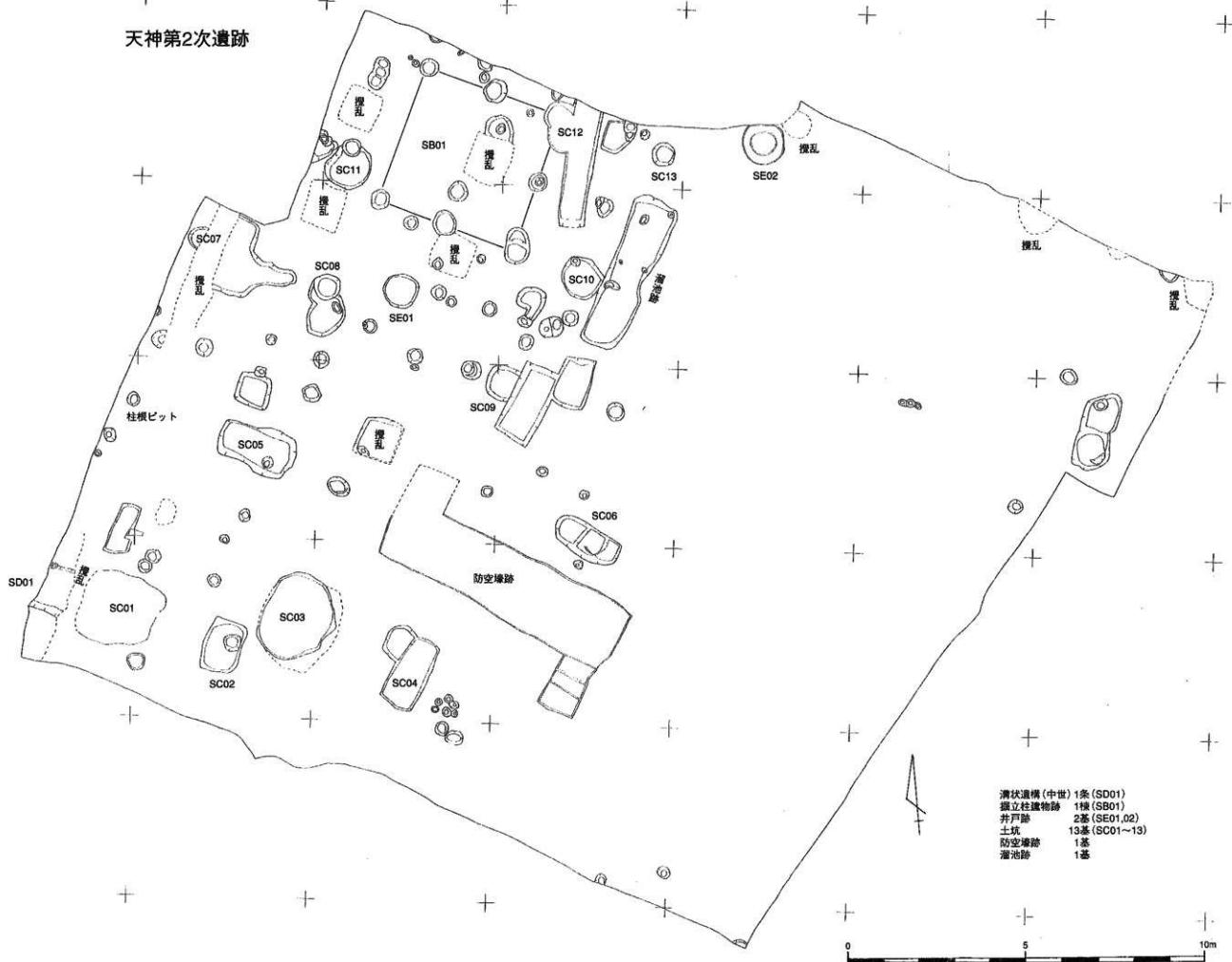


図4 天神第2次遺構分布

中町第3次遺跡

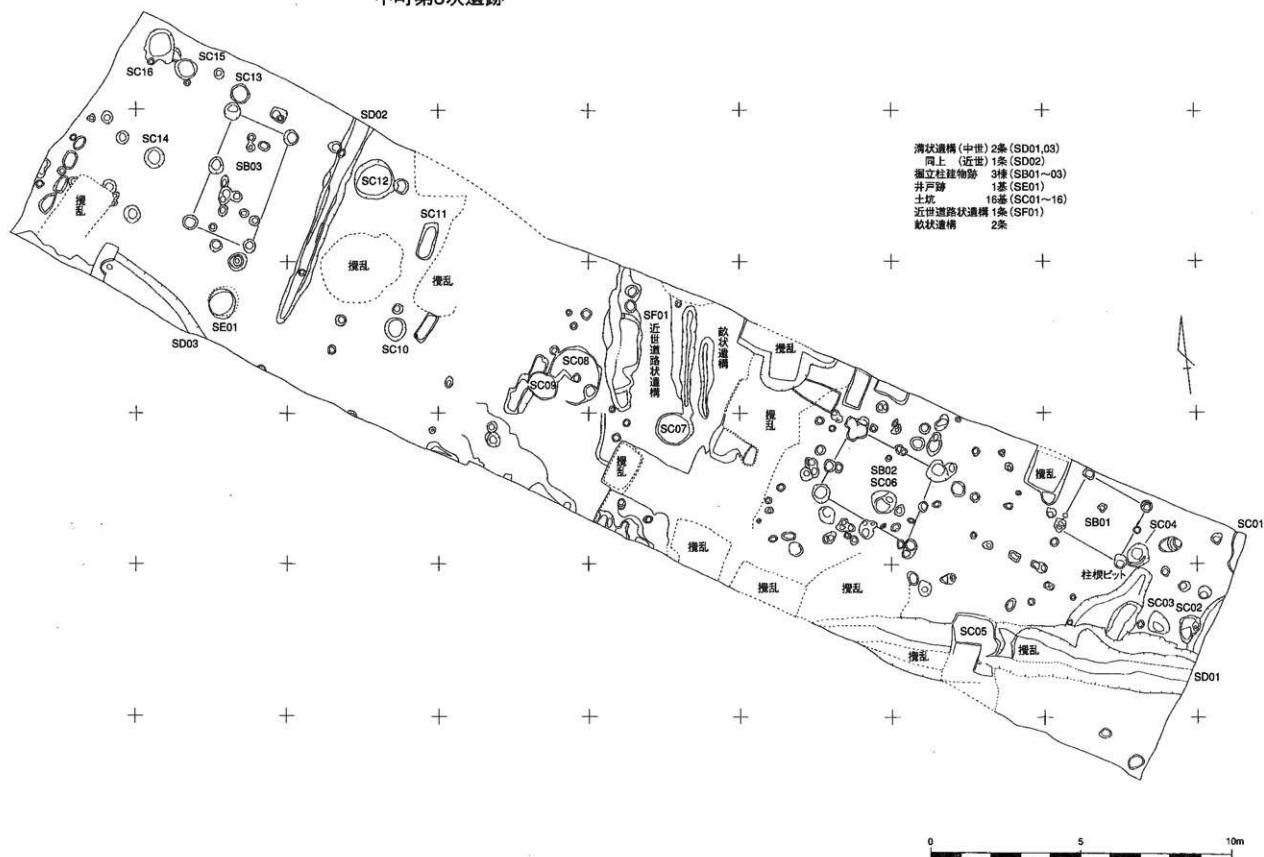


図5 中町第3次遺跡分布



天神第2次空中写真  
(完掘状況、  
垂直上空から)  
ほぼ中央に位置して  
いるのが防空壕跡



同上検出状況  
(南から)



中町第3次  
遺構検出状況（西から）



同上完掘状況  
(西から)  
手前に道路状遺構が  
みられる。



中世溝SD01  
土層断面  
(調査区東壁)



中町遺跡（第3次）  
鉄滓・鉄塊系遺物  
出土状況（北から）



同上  
SB01のピット内の  
柱根（西から）



天神遺跡（第2次）  
調査区西側の柱根  
ピット（東から）

図6 中町第3次遺跡土層断面

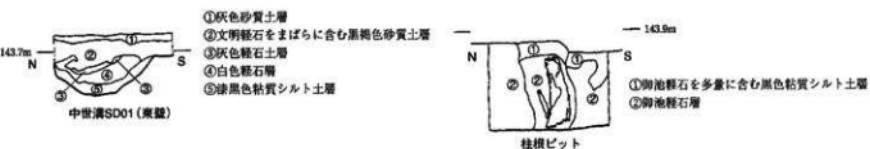
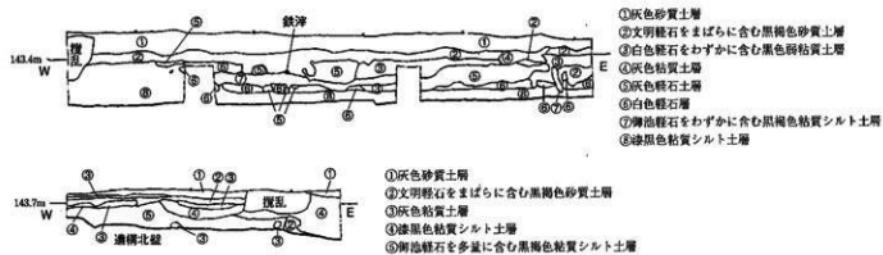


図7 天神第2次遺跡土層断面

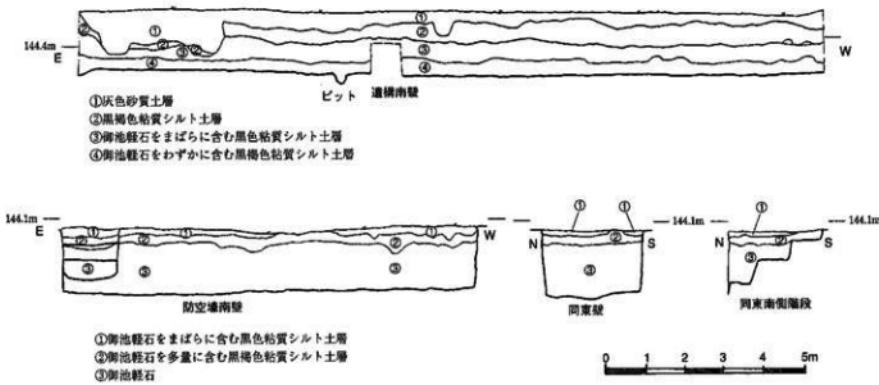
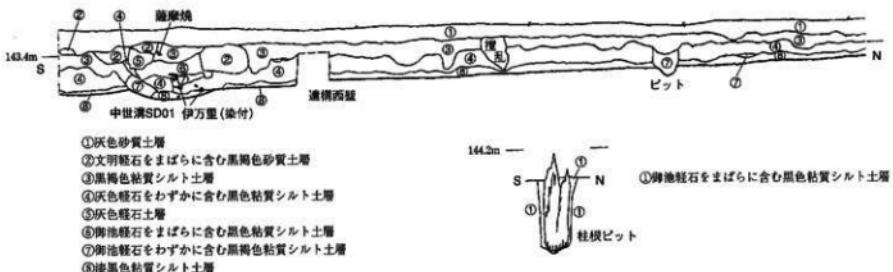
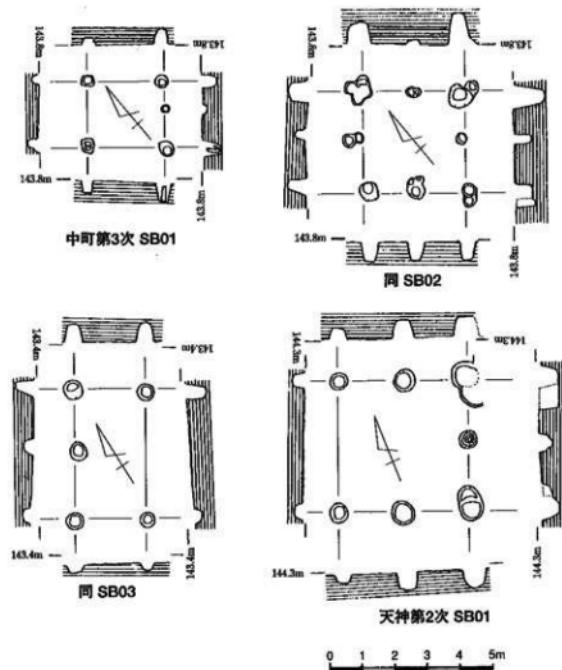


図 8 近世掘立柱跡



造構名	規 模 (m)		断面形態	植 土	切 合 間 係 等	特 徴 - (時期)
	幅	深さ				
SD 0 1	0.8~1.4	0.45~0.7	U字形	5・6層	南側が後世の搅乱に切られる。	上～下層まで礎化ブロックが認められる。(文明軽石降下前)
SD 0 2	0.4~0.6	0.3~0.5	浅いU字形	4・5層	西側及び南側のビットを切る。	床面付近に礎化ブロックが認められる。(文明軽石降下前)
SD 0 3	0.8~1.2	0.45~0.7	U字形	5層	SD01の延長?	上層・床面付近に礎化ブロックが認められる。(文明軽石降下前)
造構名	規 模	植 土	柱穴埋土		備 考 - (時期)	
SB 0 1	2間×1.5間?・東西棟			5・6層	東南のビットに柱根あり。(文明修石降下前)	
SB 0 2	2間×2間・東西棟			5・6層	西面に柱が遡る可能性あり。中央にSC05を包摺する形態。(文明軽石降下前)	
SB 0 3	3間×1.5間・南北棟			5・6層	南側にSB01あり。(文明軽石降下前)	

表 1 中町第3次地区溝状造構・掘立柱建物一覧

造構名	規 模 (m)		断面形態	植 土	切 合 間 係 等	特 徴 - (時期)
	幅	深さ				
SD 0 1	0.8~1.4	0.45~0.7	U字形	5・6層	南側が後世の搅乱に切られる。	上～下層まで礎化ブロックが認められる。(文明軽石降下前)
造構名	規 模	植 土	柱穴埋土		備 考	(時期)
SB 0 1	3間×3間?・東西棟			5・6層	SC06及び後世の搅乱に切られる。南側にSB01あり。(文明軽石降下前)	

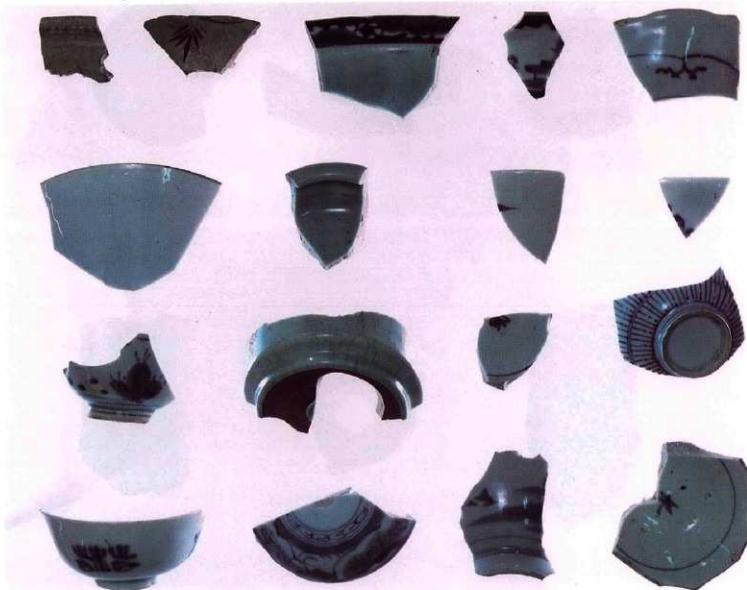
表 2 天神第2次地区溝状造構・掘立柱建物一覧



中町遺跡（第3次）出土遺物（染付・色絵）



中町第3次出土遺物（染付）



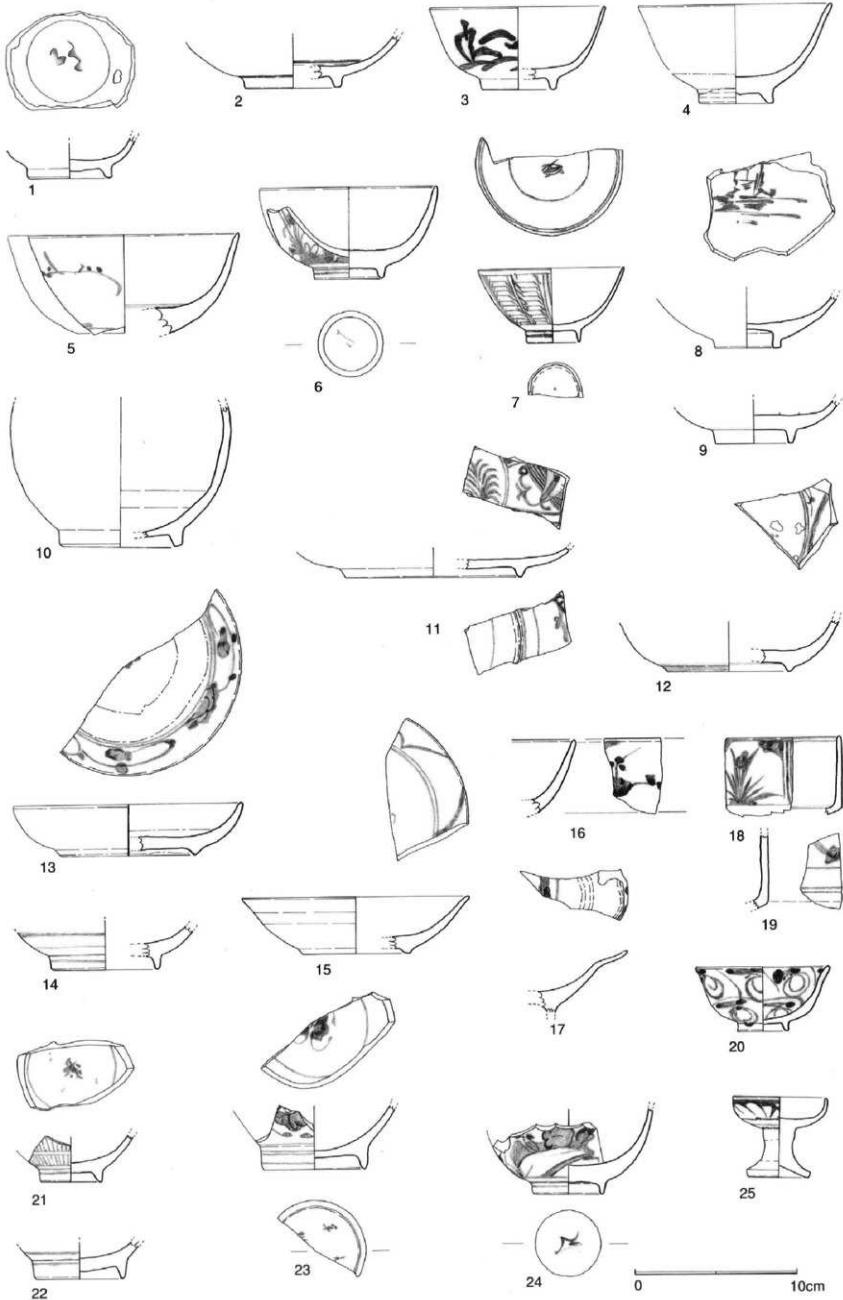
天神第2次出土遺物（染付）



中町遺跡（第3次）出土遺物（薩摩焼）



同上出土遺物（ふいごの刃口）



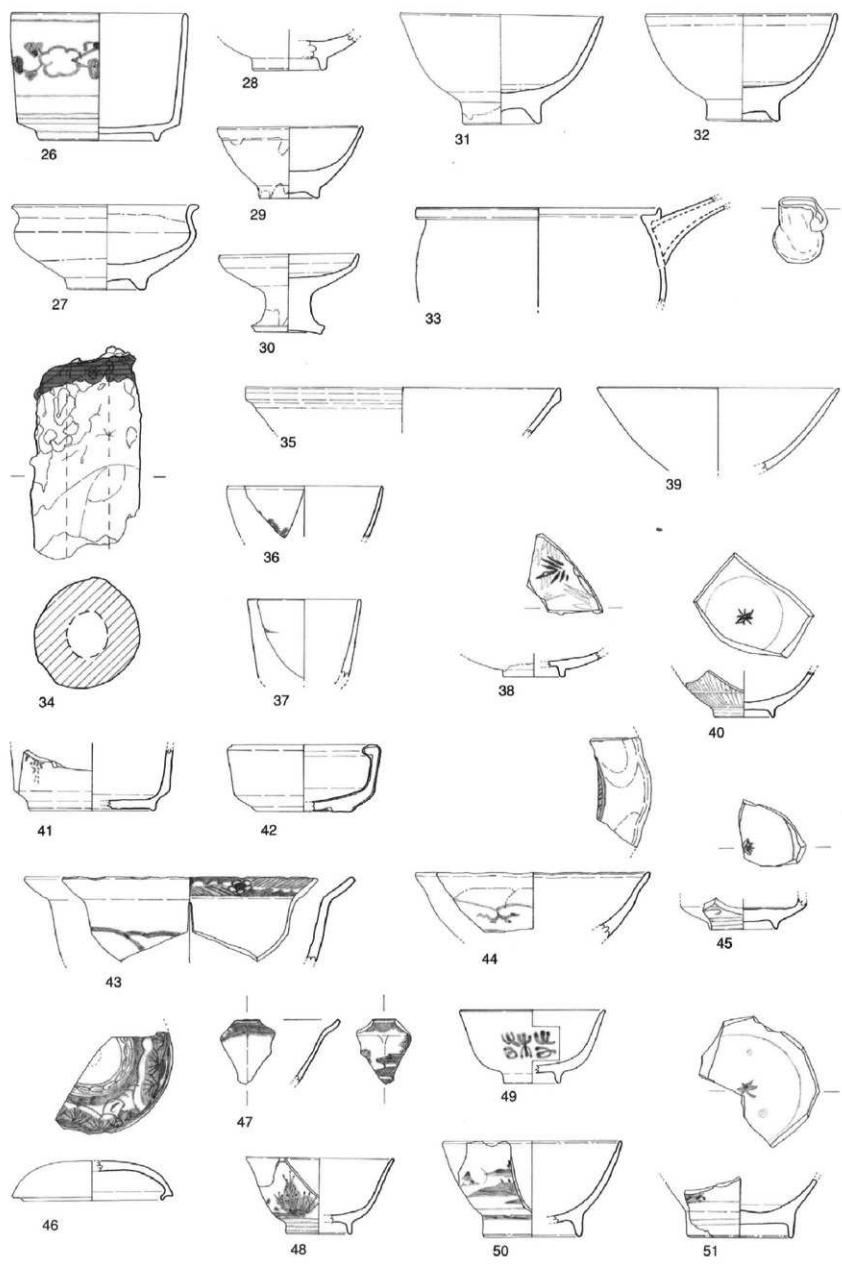


図9 中町第3次・天神第2次出土遺物実測図

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	備考
			口径	底径	器高		
1	青磁	碗	—	5.2	—		16C 中国
2	染付	碗	—	6.0	—	蛇ノ目釉剥ぎ	16C 中国
3	染付	碗	10.8	4.6	5.1	蛇ノ目釉剥ぎ	19C
4	陶器	碗	12.0	4.6	6.1	蛇ノ目釉剥ぎ	
5	染付	碗	14.1	—	—	中一梅文様	18C 前葉～中葉 波佐見焼
6	染付	碗	11.0	4.3	5.65	外一梅樹草花文様	18C 前葉～中葉 波佐見焼
7	染付	碗	9.0	3.4	4.6	外一押縁下見文様	18C 前半 肥前
8	陶器	平碗	—	4.2	—		18C 前半 肥前(京焼風)
9	磁器	碗	—	4.8	—	蛇ノ目釉剥ぎ 赤褐色色状の砂口積痕有	18C 肥前
10	磁器	壺?	—	7.6	—		18C 肥前
11	染付	皿	—	10.9	—		17C 後半～18C 前半 有田焼芙蓉手
12	染付	皿	—	7.6	—	目積痕有	18C 前葉～中葉 波佐見焼
13	染付	皿	14.2	8.2	3.2	蛇ノ目釉剥ぎ 中一松竹梅文様	18C 前葉～中葉 波佐見焼
14	染付	碗	—	6.7	—	外面に施釉	18C 後半～19C 前半
15	磁器	皿	14.0	6.6	3.5		18C 前半～中頃 波佐見焼
16	染付	碗	—	—	—		18C 中頃 肥前
17	染付	皿	—	—	—	鉄輪	18C 肥前
18	染付	筒型碗	7.2	—	—	外一区割草花文様	18C 後半～19C 始め 肥前?
19	染付	蓋物	—	—	—		18C 肥前
20	染付	碗	8.4	3.2	3.95	皮クジラ文様	19C 濑戸?
21	染付	碗	—	3.8	—	目積痕有 外一紫雲文様	18C 後半～19C 前半
22	染付	碗	—	5.6	—	表裏に施釉	19C 前半 肥前の広東碗
23	染付	碗	—	6.5	—		18C 終り～19C 始め 肥前の広東碗
24	染付	碗	—	4.4	—	外一松竹梅文様	
25	磁器	仏飯器	5.9	4.0	5.0	外一菊文様	18C 後半～19C 前半 肥前
26	染付	筒型碗	10.8	7.4	7.85		
27	陶器	香炉?	11.45	4.85	5.3	無釉	
28	磁器	碗	—	4.6	—	蛇ノ目釉剥ぎ	18C 肥前
29	陶器	碗	9.0	3.7	4.4	蛇ノ目釉剥ぎ 部分的に成型時の調整痕	
30	陶器	仏飯器	8.65	4.6	5.9	蛇ノ目釉剥ぎ	
31	陶器	碗	12.5	5.0	6.9	蛇ノ目釉剥ぎ	
32	陶器	碗	11.9	4.5	6.65	蛇ノ目釉剥ぎ	
33	陶器	片手鍋	15.2	—	—		
34	ふいご	羽口	—	—	—		

表3 中町第3次遺跡遺物観察表

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	備考
			口径	底径	器高		
35	白磁	碗	19.4	—	—		12C後半 中国福建省
36	染付	碗	9.6	—	—		18C 肥前
37	染付	せぢよこ	7.0	—	—	表裏に施釉	18C終~19C前半 波佐見か?
38	陶器	碗	—	3.8	—	中一紅葉模様 赤絵平浅碗	18C後半 京都信楽焼系
39	白磁	碗	15.0	—	—	表裏に施釉 銀釉(ギクジラ)	17C末~18C前半 有田のうがい碗
40	染付	碗	—	3.8	—		18C後葉~19C前葉
41	色絵	筒型碗	—	7.8	—		18C 肥前
42	青磁	鉢?	9.4	6.0	4.1	部分的に厚釉	18C前半 波佐見か?
43	龍・蛇	輪花鉢	20.4	—	—	底部一竜の目高台	18C後半
44	染付	皿	14.4	—	—		18C後葉~19C前葉
45	染付	筒型碗	—	4.2	—		18C後葉~19C前葉
46	染付	碗 蓋	8.6	—	—	かえり徑9.8 ツマミ取付痕有	19C 产地不明?
47	染付	八角鉢	—	—	—	外一束屋山水文	19C前葉~中葉 肥前か?
48	染付	碗	9.1	4.1	4.7		19C前葉~中葉
49	染付	碗	9.0	3.5	4.5		19C 濑戸
50	染付	碗	10.0	6.1	5.9		19C前半 広東碗(蓮瓣形)
51	染付	碗	—	6.6	—	目積痕有	19C前葉 広東碗

表4 天神第2次遺跡遺物観察表

#### 4. まとめにかえて

ここでは、中町第3次遺跡の調査区における、中世溝（SD01, 03）及び近世溝（SD02）と大量に出土した鉄滓等の製鉄遺物について考えてみます。

調査区は、近世から近現代にかけてかなりの掘削の変遷が見られ、各所に大規模な擾乱が広がっています。SD01においても西側半分が擾乱に切られていますが、残存している粘質灰色軽石土層及び白色軽石層が溝底面より比較的高い位置で確認されており、中世のかなり古い時期のものと考えられます。またSD01の延長と考えられるSD03についても、同様な土層断面が見られます。なお、SD01, 03の出土遺物は染付・土師器が数点に止りましたが、完形品に近いものもあり、当時の生活様式・時代背景の貴重な資料となるのではと考えます。SD02からは、大量の鉄滓（鉄造りに伴う不純物）・ふいごの羽口（粘土を焼いて造った送風管）など鉄生産関連の遺物が見つかり、江戸時代に鍛冶炉や作業場のためにつくられた溝ではないかと推測されます。鉄滓については、鉄分が誘導化して赤茶褐色の鏽を帯びたものが多く、いずれも楕円形を呈した（鍛冶炉の炉床部分に溜まった滓が楕円形を形造っていたからと考えられている）鍛冶溝であることが確認されており（鉄滓の肉眼観察で鍛冶溝か製鉄溝かの区別は可能だが、最終的には特殊金属探知機等に反応した鉄滓を顕微鏡組織による理化学分析を行い判定するのが望ましいといわれている）、近くに鍛冶炉や作業場が存在したことを裏付けることができます。

製鉄遺構については、大別して製鉄炉と鍛冶炉に分けられており、前者は鉄鉱石もしくは砂鉄を原料とし、木炭を燃料として鉄の基を作る段階の製錬作業を行う炉であり、現存しているものとして鹿児島県肝属郡根占町炭屋製鉄遺跡があり、後者は製鉄炉から取り出した鉄塊を細かく粉碎し、地面を窪めた火床炉（鍛冶炉）を設け、これに木炭を置き再び半融解の状態にする精練（鍛冶）作業を行う炉であり、両方発見されたものとして、鹿児島県川辺郡知覧町厚地松山製鉄遺跡があります。當市の中町第3次遺跡も、鍛冶炉遺跡として都城盆地では例の少ないものとして特出されます。また、遺跡は市街地にあり、山林や河川から離れた場所に立地しているため、鉄素材（砂鉄や鉄鉱石等）を木炭によって還元溶融するいわゆる製鉄作業ではなくて、むしろ小職人などによる鍛冶工房が存在した可能性が高いことが立地や歴史的背景から推測でき、ここでの作業工程は、鍛や鎌、釤等の日用製品を制作する段階の鍛錬鍛冶ではないかと考えられます（残念ながら、今回の調査では、製品と確認できるものは発見されませんでした）。今回の調査において、当遺跡は近世の小規模な鍛冶段階の遺跡として位置づけられるとともに、今後の都城盆地管内の発掘調査が進み、豊形炉や箱形炉の製鉄炉遺構の発見や、都城烏津氏に関連する大規模な近世の製鉄遺跡、それ以前の炉跡の発見を通じて、町屋における職人達の生活状況や商品（特に鉄製品）の流通等について、様々な事実が明らかになってくると考えます。

##### <引用・参考文献>

上田 耕 2001 「都城市中町遺跡出土の鉄生産関連遺物について」

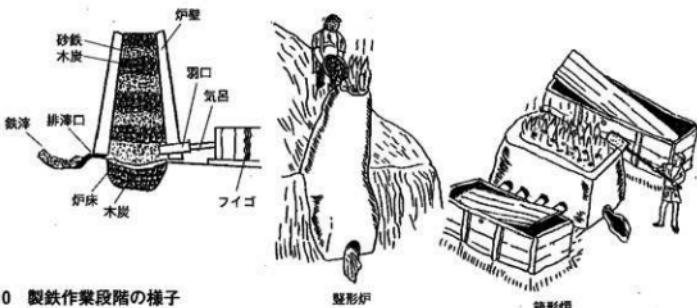


図10 製鉄作業段階の様子

豊形炉

地形炉

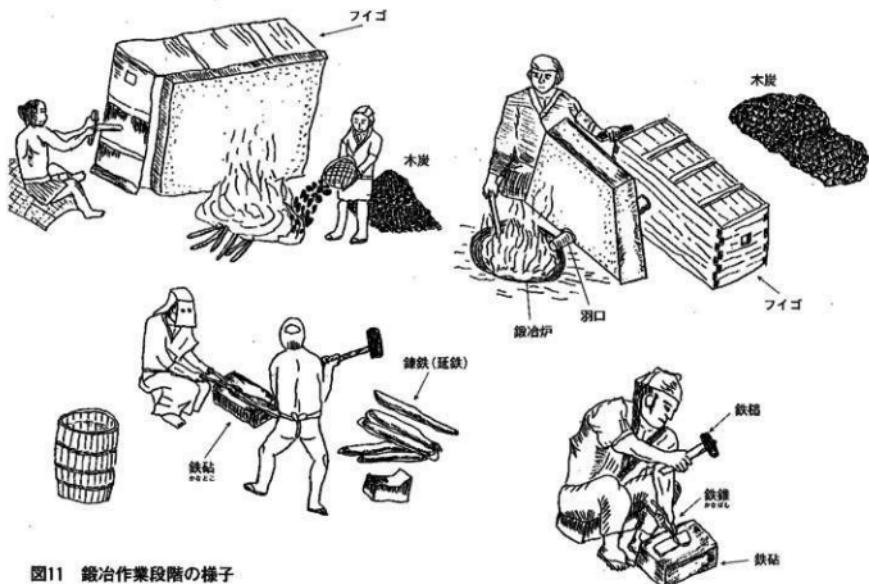


図11 錫冶作業段階の様子

# 報告書抄録

ふりがな 書名	てんじんいせきだいにじちょうさなかまちせあだいさんじちょうさ 天神遺跡第2次調査・中町遺跡第3次調査					
副書名	中央東部地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書					
卷次						
シリーズ名	都城市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第54集					
編著者名	松下述之					
編集機関	宮崎県都城市教育委員会					
所在地	宮崎県都城市姫町6街区21号					
発行年月日	2001年3月31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	北緯	東経	調査期間	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
天神遺跡(第2次)	都城市 天神町	31°43'20"	131°04'10"	2000年10月4日～ 2000年11月29日	550.0	区画整理 事業関連
中町遺跡(第3次)	中町	31°43'21"	131°04'05"	2000年7月21日～ 2000年9月29日	500.0	
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
天神遺跡 (第2次)	集落跡	中世	溝状遺構	白磁		
		近世	掘立柱建物跡 井戸 土坑	肥前系染付 肥前系陶磁器 薩摩焼 土器		
		近代	防空壕 溝池	瀬戸焼		
中町遺跡 (第3次)	集落跡	中世	溝状遺構 掘立柱建物跡 土坑	青磁 白磁		
		近世	溝状遺構 掘立柱建物跡 土坑 道路状遺構 畝状遺構 かまど状遺構	肥前系染付 肥前系陶磁器 京風信楽焼 薩摩焼 鉄滓 土師質土器		

都城市文化財調査報告書第54集

天神遺跡第2次・中町遺跡第3次調査

2001年3月

編集 宮崎県都城市教育委員会

発行 ☎885-8555 宮崎県都城市姫城町6街区21号

TEL (0986) 23-9647 FAX (0986) 24-1989

印刷 宮崎県印刷工業組合 都城支部

☎885-0024 宮崎県都城市北原町1456-4